

記入例

<別紙様式3-1 規程第5条第1項関係>

岐阜県自然工法管理士更新申請書

岐阜県知事 古田 肇 様

私は、岐阜県自然工法管理士の更新を申請します。

① 令和●年○月×日

② 氏名：自然 太郎
自然工法管理士認定証番号：230999

③ 自宅住所：〒502-1234
岐阜市○○町△丁目□番 ▲▲荘 101号室

自宅電話番号：058-123-4567 携帯番号でも可

勤務先所在地：〒500-8570
岐阜市藪田南 2-1-1 岐阜県庁 12階

④ 勤務先電話番号：058-272-1111

E-mail：c11656@pref.gifu.lg.jp

⑤ 自然共生工法研究会：個人会員（3年以上・3年未満） ・ 法人会員
（該当する箇所を○で囲む） 非会員

⑥ 取得資格（自然環境関係）：ビオトープ管理士1級、樹木医補

⑦ 継続教育記録簿の枚数：1枚

自署名：自然 太郎

記入要領

※必ず「黒または青のボールペンで」記入すること。
鉛筆、シャープペンシル、フリクションインキでの記入は受けません。

- ① 申請書を提出する日付を記入してください
- ② 申請される方本人の氏名、自然工法管理士認定番号（認定証に記載してある6桁の番号）を記入してください。
- ③ 郵便番号、住所は地番、部屋番号まで記入してください。
（審査完了後のご案内や認定証の送付などを行うために必要となります）
- ④ 申請内容の確認のために、ご連絡させていただく場合があります。必ず記入してください。
- ⑤ 自身が自然工法研究会の会員かどうか不明な場合は**非会員**としてください。
会員であるかどうかで更新に必要な単位数が変わります。（下記参照）

・個人会員（3年以上）	⇒	<u>必要単位数 5単位</u>
・個人会員（3年未満）	}	⇒ <u>必要単位数 10単位</u>
・法人会員		
・非会員		

- ⑥ ビオトープ管理士、生物分類技能検定等、関連する資格があれば記入してください。
空欄でも構いません。※資格の内容及び記入の有無による審査への影響はありません。
- ⑦ 継続教育（自己研鑽）記録簿（別紙様式4）を添付してある枚数を記入してください。

資格の有効期限が切れている方は、再認定申請を行ってください。再認定申請の場合は様式が異なります。岐阜県自然工法管理士再認定申請書<別紙様式3-2>を使用してください。

記入例

<別紙様式4 規程第5条関係>

【岐阜県自然工法管理士継続教育（自己研鑽）記録簿】（1/〇頁）

管理士認定証番号：230999 氏名：自然 太郎

認定証有効期限：令和●年3月31日

①	②	③	④	⑤	⑥
NO	年月日	講習・活動の 名称	主催者	講習・活動内容 <u>（詳細に記載）</u>	単位数 自己研鑽の 形態
1	令和5年 〇月×日	△△川環境学習会	NPO法人 △△川を守る会	河川に棲む生き物についての総合学習を受講。地域児童とともに河川の生物とそこで形成されている生態系保全の重要性について学習した。	1 一般講習等 a 1
2	令和5年 〇月×日	図書等による自己 研鑽	タイトル「人と自然の共生」 著者「岐阜太郎」	河道の直線化、河道掘削など従来型の河川改修が自然環境に及ぼす負の影響について学んだ。工事箇所にはどんな生物がいるか、生息環境をできるだけ保全するために工夫できることはないか、という視点を持ち施工に活かしたい。	1 一般講習等 a 3
3	令和5年 〇月×日	ぎふ・ロード・プレイヤー	岐阜県	県道〇〇線及び市道△△線の清掃活動への参加。	1 一般講習等 a 4
4	令和5年 〇月×日	長良川の清掃ボランティア	岐阜市 〇〇課	長良橋周辺河川敷（長良川右岸）の清掃活動への参加。	1 一般講習等 a 4
5	令和5年 〇月×日	第●回岐阜県川づくり事例発表会	岐阜県	県内各機関が自然共生に関し建設工事現場で実践したことや、研究機関での調査研究についての事例発表を聴講。〇〇大学△△教授による基調講演「自然共生を実現するための環境づくり」を聴講。	2 行政主催講習 b 1
6	令和5年 〇月×日	植物・魚類生息環境勉強会	岐阜県自然共生工法研究会	▲▲ダム工事事務所周辺にてダム建設工事にあたっての周辺環境保全の概要についての講義を聴講。当該地域での魚類の採捕、同定実習に参加。	2 研究会行事 c 2
7	令和5年 〇月×日	河川改良事業	岐阜県〇〇土木事務所	岐阜県指定希少野生生物である「ハリヨ」の生息状況調査を行うとともに、生息環境の保全のためにワンドの設置を提案した。	2 技術提案・ 施工実施 f 1
合計（必要単位数に限らず、すべての記録を記入）					10

記入要領

※必ず「黒または青のボールペンで」記入すること。

鉛筆、シャープペンシル、フリクションインキでの記入は受け付けません。

※本記録簿に記入できる講習・活動は、更新する年度を含む直近5年間のものとなります。

適宜、行及びページを追加して記入してください。

① NO

通し番号を記入してください。

② 年月日

活動した年月日を記載してください。講習会等で複数日程の場合は「〇月×日～××日」と記載してください。

③ 講習・活動の名称

具体的に記入してください。（記入例参照）

④ 主催者

行政団体名（県・市・町等）、企業名、会社名、組織名などを記入してください。

⑤ 講習・活動内容（詳細に記載）

詳細に記載してください。「自然共生に関する自己研鑽の活動である」または「別表-2のいずれかの活動内容に当てはまる」と判断できるような記載をしてください。

⑥ 単位数、自己研鑽の形態

別表-2（次頁）を参考に記載してください。

<別表-2>

自己研鑽の形態区分	内 容	単位数
a. 一般講習等	a 1 ・自然共生や環境に関する、シンポジウム、講習会、研修会、勉強会（総合的な学習の時間を含む）等への参加	1
	a 2 ・自然共生や環境に関する、シンポジウム、講習会、研修会、勉強会（総合的な学習の時間を含む）等へ講師、講演者、発表者、またはパネリストとして参加（注1）	3
	a 3 ・自然共生・環境に関する図書等による自己研鑽（注2）	1
	a 4 ・自然環境保護・清掃などのボランティア活動への参加（注3）	1
b. 行政主催講習・岐阜県自然共生工法研究会（以下「研究会」）登録講習	b 1 ・自然共生や環境に関して、行政が主催し一般公募を行った、または研究会に登録されたシンポジウム、講習会、研修会等への参加（注4）	2
	b 2 ・自然共生や環境に関して、行政が主催し一般公募を行った、または研究会に登録されたシンポジウム、講習会、研修会等へ講師、講演者、発表者、またはパネリストとして参加（注1）（注4）	4
c. 研究会行事	c 1 ・研究会が主催または共催するシンポジウム、講習会、勉強会等への参加	2
	c 2 ・研究会が主催または共催する、自然環境保護・清掃などのボランティア活動への参加（注5）	1
	c 3 ・研究会が主催または共催する、シンポジウム、講習会、勉強会等へ講師、講演者、発表者、またはパネリストとして参加（注1）	4
	c 4 ・研究会が開催する事例発表会等においてポスター発表	2
d. 論文発表等	d 1 ・自然共生や環境に関して、機関誌、一般紙等へ投稿し、掲載されたもの（注1）	2
	d 2 ・研究会の会報誌等へ投稿し、掲載されたもの（注1）	2
	d 3 ・自然共生や環境に関して、口頭発表し、要旨等が掲載されたもの（注1）	2
	d 4 ・自然共生や環境に関して、論文発表し、掲載されたもの（協会等）（注1）	3
	d 5 ・自然共生や環境に関して、論文発表し、掲載されたもの（学会）（注1）	4
	d 6 ・学会や協会等の論文選定委員会により選定され、掲載されたもの（注1）	5
e. 岐阜県自然工法管理士養成講習	e 1 ・岐阜県自然工法管理士養成講習課程の修了	10
f. 技術提案・施工実施	f 1 ・自然共生・環境に関する、業務における技術提案、施工実施における工夫等	2
	f 2 ・自然共生や環境に関する、シンポジウム、講習会、研修会、勉強会等において発表された業務・工事に中心的・指導的に従事（注1）	3
	f 3 ・自然共生や環境に関する、業務・工事であって、表彰された等の優れたもの（注1）	4

（注1）更新申請書、継続教育記録簿の他、証明できる書類を提出。

（注2）報告上限は通算6単位までとする。（令和5年度限定、例年は通算3単位まで）

（注3）報告上限は通算6単位までとする。（令和5年度限定、例年は通算3単位まで）

（注4）登録講習とは、別紙登録様式に掲げる岐阜県自然工法管理士継続教育講習会登録申請書により岐阜県自然共生工法研究会へ登録を行ったものをいう。

（注5）報告上限は通算6単位までとする。（令和5年度限定、例年は通算3単位まで）

自己研鑽の形態区分について

○ a 3 「自然共生・環境に関する図書等による自己研鑽」について

図書を購入する必要はありません。図書館での貸し出し等でも構いません。また、自然共生、環境に関連する内容であれば書籍に限らず学術記事や論文等でも良いです。記録簿に記入する際は、タイトル、著者名、簡単に読んだ内容及び感じたこと、学んだこと（自身の身近に活かせること）等を記載してください。

○ a 4 「自然環境保護・清掃などのボランティア活動への参加」について

河川の清掃、ぎふ・ロード・プレイヤー、地域の植樹・植栽、外来種駆除・防除等の活動が単位として認められます。主催団体は問いません。（行政、自治体、NPO団体等）※ただし、自宅前の清掃、庭の草刈りなどは認められません。記録簿には、場所と活動の内容を具体的に記載してください。

○ 自己研鑽の記録の証明（エビデンス）について、

基本的に証明書等は不要ですが、左表の（注1）と記載がある形態区分の場合は、証明書類が必要となります。申請書および記録簿と合わせて、証明書類の提出をお願いします。

◆証明書類（写）は以下を参考にしてください。

※いずれも申請者本人の氏名が確認できる、あるいは申請者本人が写真に写っていること。

- ・研修の次第や案内チラシ等。
- ・主催団体からの講師依頼書。
- ・新聞記事や主催団体のホームページ。
- ・活動記録・報告書や公表資料等。
- ・当該論文が掲載されたページ（「d. 論文発表等」のみ）。

○ 単位取得の緩和措置について

新型コロナウイルス感染症の拡大対策のため、講習会等が中止、縮小していることに伴い、一部の単位の取得上限を緩和しております。a 3、a 4、c 2の単位について、取得上限を6単位としております。（通常は3単位、令和5年度限定措置）

「区分a 3 × 活動6回 + 区分a 4 × 活動4回 = 10単位」といった取得が可能となっていますので、ぜひご活用ください。

※令和6年度以降の措置については、別途ホームページにてご案内いたします。